

公表

児童発達支援における自己評価総括表

○事業所名	株式会社プライムケアマネジメント A-Z KID'S		
○保護者評価実施期間	2025年2月10日 ~		2025年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	2025年2月10日 ~		2025年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3 月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動プログラム 室内だけでなく、野外での活動も多く取り入れ、様々なことを経験できるようにしている。	人間関係や社会性を身に付けるため、こどもたちの意見を取り入れ事業所でのクッキングや工作・また外出支援を多く取り入れています。	こどもたちの可能性を引きだすため、またお友達とのコミュニケーション能力を高めていけるように、安全に配慮できる場所へ出向いていきたいと考えます。行く場所がマンネリ化しないように情報収集していく
2	こどもたちの意見を尊重しつつ、自分でやろうとする意識を高めながら育てる支援を行う。	集団活動や自由遊びにおいても、こどもたちの意見を聞き活動を決めるようにしています。 また、着替え・身支度・排泄面等は自分でやろうとする意識を持ってもらうように職員全員で声掛けをする。	集団の雰囲気の中で日々変化していくため、子どもの特性を理解し、どのような対応や工夫が必要かを共有していく。
3	家族連絡	事業所での活動や、行政連絡等を送迎時やLINE等で共有していく。	事業所内での活動報告には、日々の成長過程を見据えた情報が必要となるため、ソフト（メイブル）への細やかな情報入力を心掛け、特定の職員だけでなく全員が対応できるようにする

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	小集団の療育であるが、個別の空間の確保が難しく、部屋の使い方に工夫が必要である	こどもたちの遊び方・過ごし方によって工夫が必要であるため、机で静かに遊べるもの、マット上で活発に動けるもの、フロア内でのボールするなど危険を回避しながらの見守りを強化続ける	こどもたちの過ごし方、性格・特徴を共有し把握する。 室内用のテント遊具や、静かに遊べる玩具をそろえる
2	職員の療育に関する経験や知識不足をなくすため、外部・内部研修を行い、障がいの知識・事故・災害等の知識の向上を行う必要がある。	保育に関する経験知識に加えて、障がい児に関する知識の向上が必要と考える。	日々の関りや、研修等を通じ、知識を高めていけるようにする
3	情報発信	現在はInstagramのみのSNS活用である。	ホームページへのブログや、活動報告やイベント予定など、施設情報を共有できるよう強化したい